

「技研公開2021」のオンライン開催について

- NHK放送技術研究所（技研）の最新の研究成果を一般に公開する「技研公開2021」を、6月1日（火）～6月30日（水）までの1か月間、技研公開2021ホームページでオンライン開催します。※1
- 「究める技術、高まる体感」をテーマに、よりリアルで没入感あふれるコンテンツ体感を実現する「イマーシブメディア」や、あらゆる人々に多様なデバイスを活用してコンテンツを届ける「ユニバーサルサービス」、未来のための基礎研究「フロンティアサイエンス」に関する17項目の研究開発成果などを、ホームページ上でわかりやすくご紹介します。
- 将来の放送・メディア技術に関する講演や、技研職員による研究発表「ラボトーク」などの動画も掲載します。



技研公開 2021 ホームページ

<https://www.nhk.or.jp/strl/open2021/>



※1：世田谷区砧のNHK放送技術研究所内での展示やイベントはありません。

□ 主なみどころ

◇ 空間共有コンテンツ視聴システム

離れた場所にいる人と、あたかも同じ空間で同じコンテンツを視聴できるように感じられるシステムです。

VR（仮想現実）・AR（拡張現実）技術を活用した新しい視聴スタイルとして、カメラ付きのヘッドマウントディスプレイを使って、文化財をテーマにしたコンテンツを、離れた場所にいる2人が一緒に楽しんでいる様子をご紹介します。



空間共有コンテンツ視聴システム

◇ 未来の没入型VRディスプレイ



没入型VRディスプレイ

見ている人の前方約180度の視界をぐるりと囲む形のフレキシブルディスプレイと、映像と音に合わせて振動する椅子を組み合わせ、コンテンツへの高い没入感を体感できる未来のVRディスプレイです。

オランダ・アムステルダムを走るトラムの運転席に座っているような体感を楽しむ様子をご紹介します。

◇ メディア・アクセシビリティ技術

視覚・聴覚障害者などあらゆる人々に多様な情報提示デバイスを活用してコンテンツをわかりやすく届ける技術研究です。番組のシーンに合わせて振動する触覚デバイスや、47都道府県に対応した気象情報手話CG自動生成システムなどをご紹介します。



触覚デバイス



気象情報手話CG自動生成システム

□ 紹介する項目

イマーシブ メディア	空間共有コンテンツ視聴システム
	A R 技術を活用した新たなコンテンツ
	シーン記述による 360 度映像と 3 次元映像の合成技術
	高精細な光線再生型 3 次元映像システム
	未来の没入型 V R ディスプレー
	地上放送高度化技術
	放送通信融合技術による新たな地上放送サービス
ユニバーサル サービス	多様な視聴環境に対応する W e b ベースのメディア技術
	音声合成技術
	手話 C G 制作技術
	触覚情報提示技術
	共にテレビを視聴するコミュニケーションロボット
フロンティア サイエンス	コンピューショナルフォトグラフィー
	色純度の高い量子ドット発光素子
	3 次元映像の奥行き表現技術
	発話者情報を付与できる書き起こしシステム
	ニュースを対象とした日英機械翻訳システム
関連展示	制作現場での放送技術
	NHK 技術の活用と実用化開発

□ 講演、研究発表など

◇ 基調講演：2 件

- 「Future Vision 2030-2040」 NHK 放送技術研究所長 三谷 公二
- 「Future media technologies that will change our world !」
Head of Standards and Industry, BBC R&D
Chair of the Technical Committee, EBU Judy Parnall 氏

◇ ラボトーク：3 件

- 技研職員が、最新の研究内容をわかりやすくご紹介します。

◇ 特別プログラム：2 件

- 「体感と知覚 ～可視化・可聴化によるエクスペリエンスの可能性～」
慶応義塾大学環境情報学部長 脇田 玲 氏
- 「公共メディア N H K における研究について」
NHK 放送文化研究所長 大里 智之
放送技術研究所長 三谷 公二